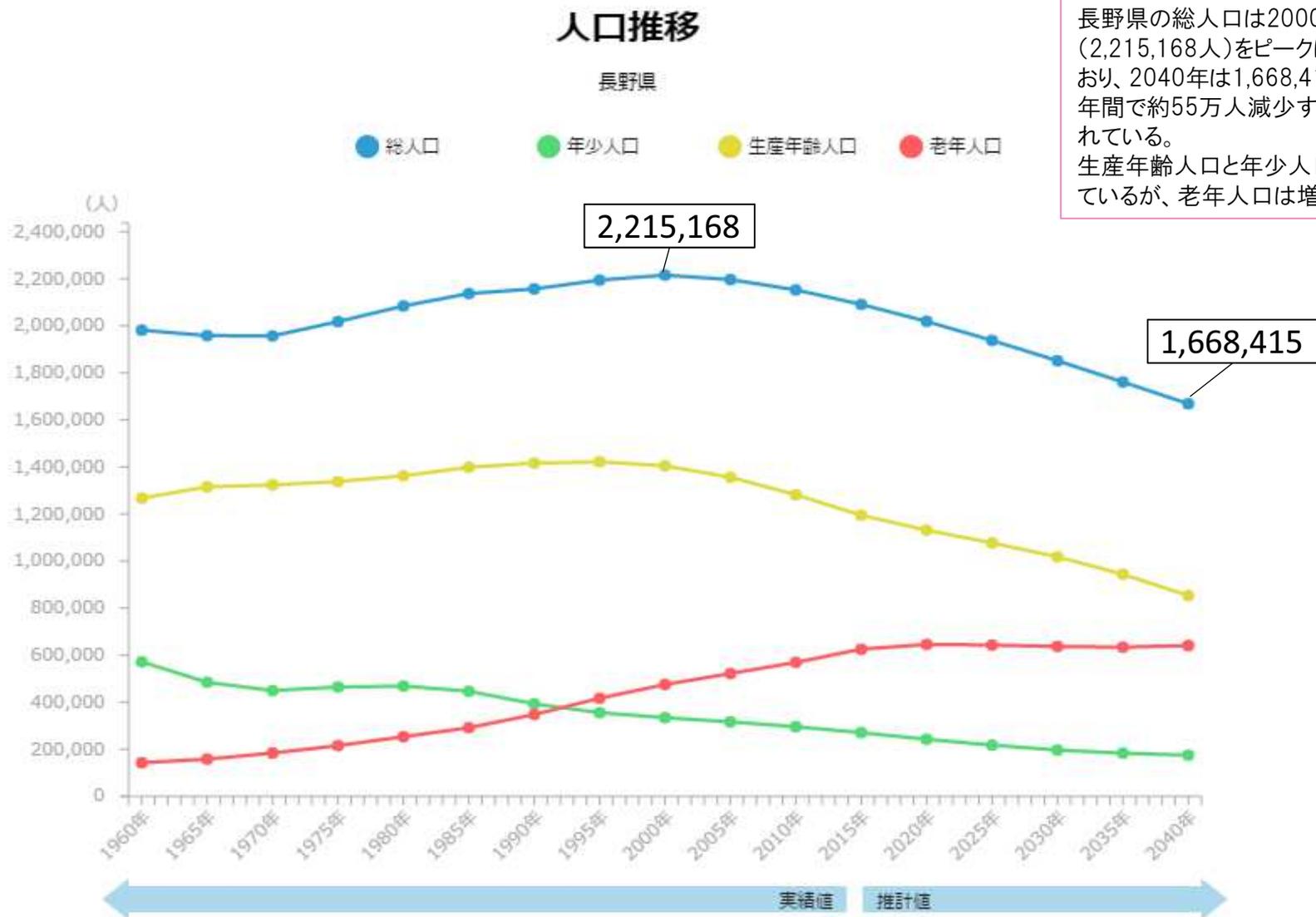


# 人口マップを使った アウトプット例

- ◆ 人口構成—人口推移
- ◆ 人口構成—人口ピラミッド
- ◆ 人口増減—出生数・死亡数／転入数・転出数
- ◆ 人口の社会増減—From-to(定住人口)—転入超過数内訳／転出超過数内訳
- ◆ 人口の社会増減—From-to(定住人口)—転入超過数上位地域／転出超過数上位地域

# 人口構成

都道府県・市区町村単位で、将来の人口推移を3区分(総人口／年少人口(14歳以下)／生産年齢人口(15～64歳)／老年人口(65歳以上))で把握することができます。



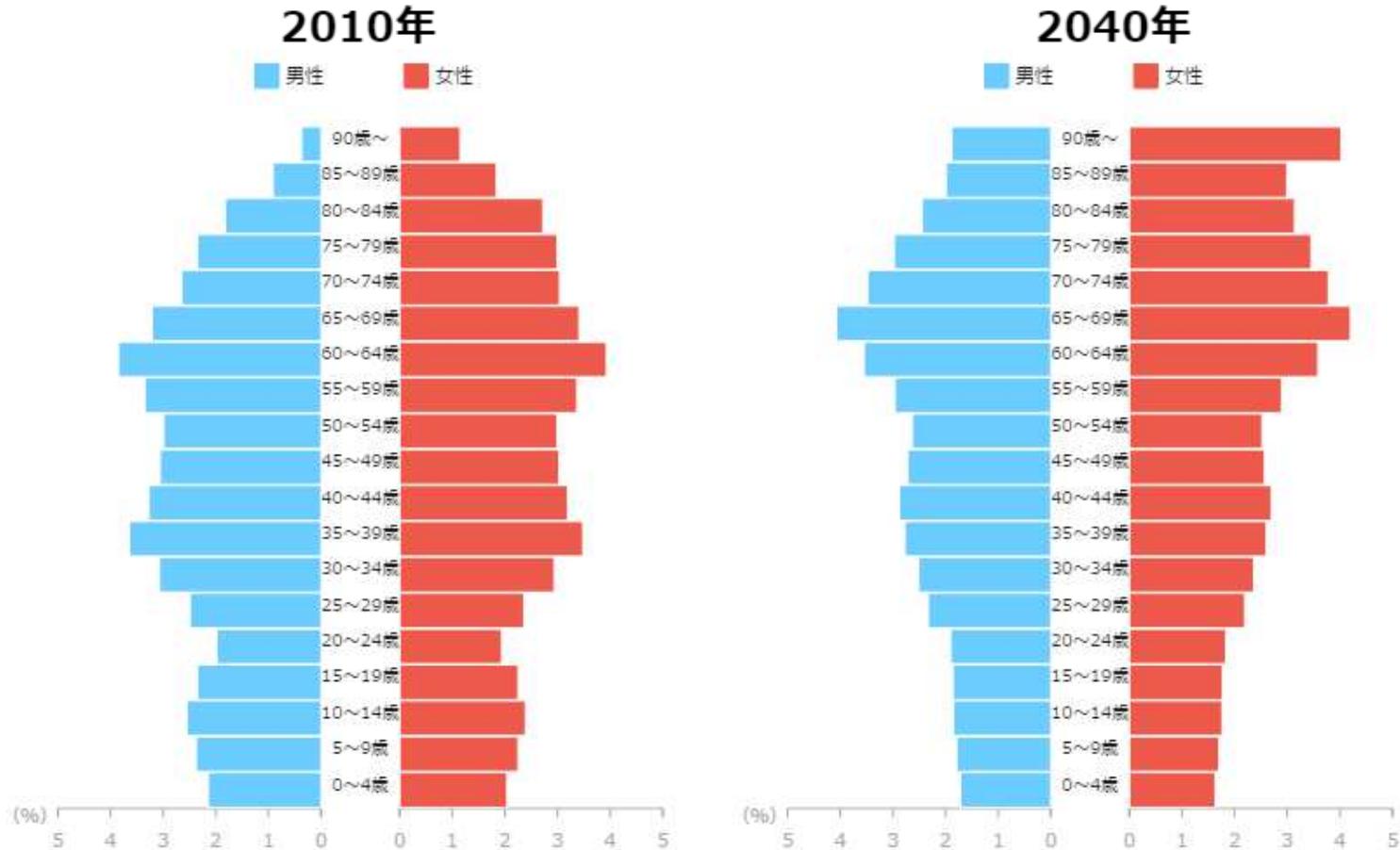
長野県の総人口は2000年(2,215,168人)をピークに減少しており、2040年は1,668,415人と、40年間で約55万人減少すると推計されている。生産年齢人口と年少人口は減少しているが、老年人口は増加が続く。

【出典】「RESAS人口マップ」-「人口構成」-「人口推移」/総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

# 人口ピラミッド

都道府県・市区町村単位で、人口ピラミッドで2 時点分表示し、人口構成を把握・予想することができます。

長野県の人口は、2010年には男女とも60～64歳と35～39歳が山をなしているが、30年後の2040年には65～69歳に山が移り、女性については90歳以上が4%を超えると推計されている。生産年齢人口の割合は5割近くまで減少すると推計される。



老年人口（65歳以上）：569,301人（26%）  
 生産年齢人口（15歳～64歳）：1,281,683人（59%）  
 年少人口（0歳～14歳）：295,742人（13%）

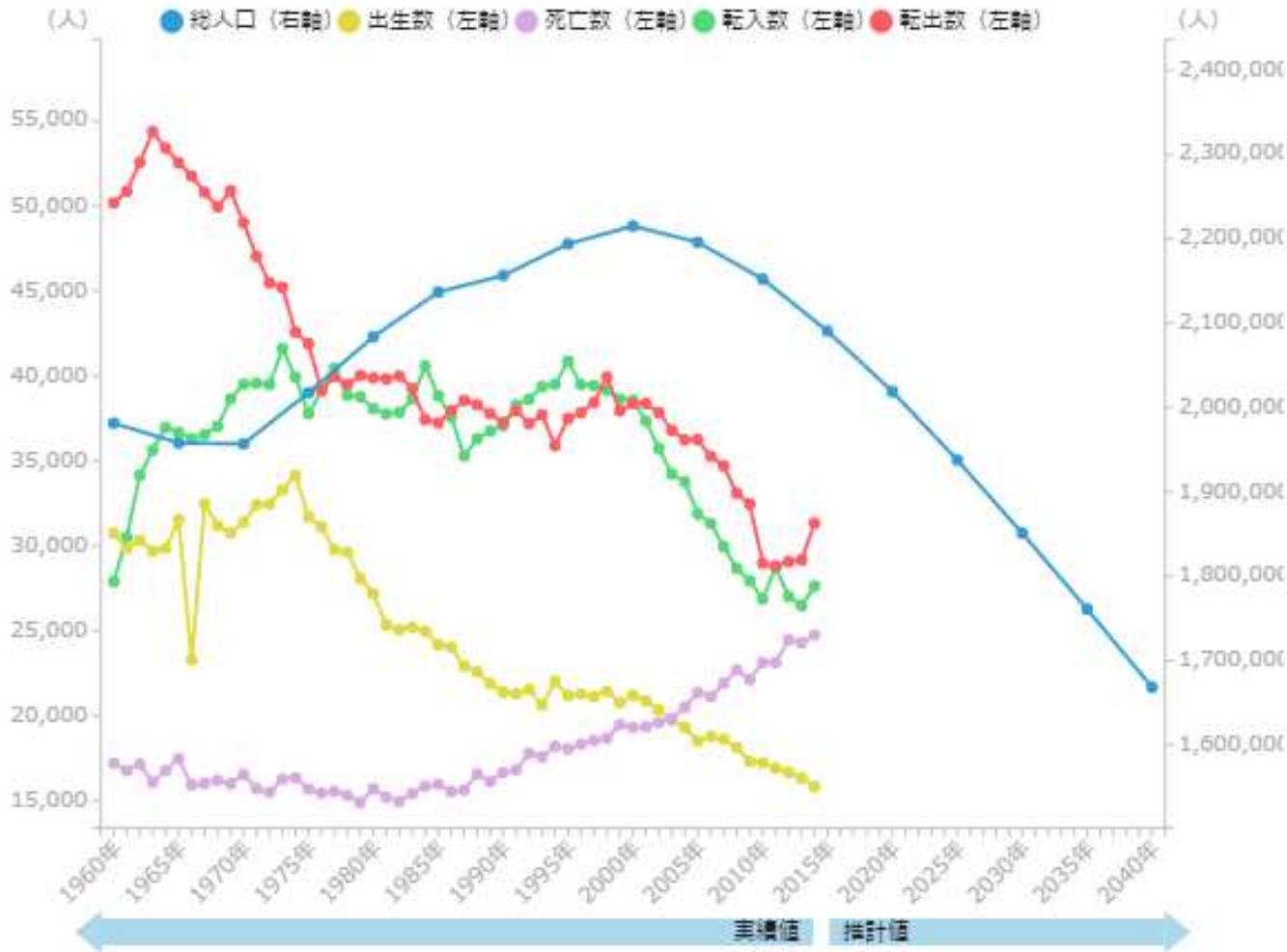
老年人口（65歳以上）：640,952人（38%）  
 生産年齢人口（15歳～64歳）：852,964人（51%）  
 年少人口（0歳～14歳）：174,499人（10%）

【出典】「RESAS人口マップ」-「人口構成」-「人口ピラミッド」/総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

# 人口増減

都道府県・市区町村単位で、総人口、出生数、死亡数、転入数、転出数の推移を把握することができます。

## 出生数・死亡数 / 転入数・転出数



長野県の出生数と死亡数をみると、2003年に逆転し、以降、死亡数が上回っている。また、長野県の転入・転出数は拮抗しつつ推移してきたが、2000年頃から転出数が上回っている。自然増減(出生数-死亡数)、社会増減(転入数-転出数)ともに長野県の人口減少の要因となっている。

【出典】「RESAS人口マップ」-「人口増減」-「グラフを表示」/総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、厚生労働省「人口動態調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」

※「自然増減」は、出生数-死亡数

※「社会増減」は、転入数-転出数+その他の移動数

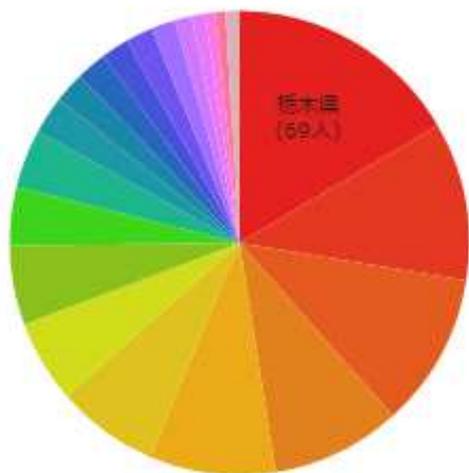
## From-to(定住人口)

男女別かつ年齢階級別に、ある都道府県・市区町村からどここの都道府県・市区町村へ、どれくらい人口流出があるかを把握することができます。

### 長野県 From-to分析 (定住人口) 2014年

#### 転入超過数内訳

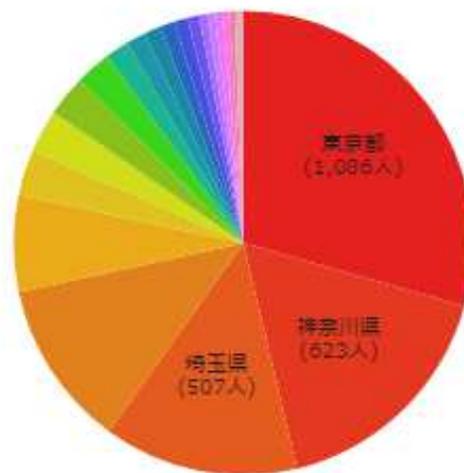
総数



- 1位 新潟県 69人 (16.5%)
- 2位 愛媛県 46人 (11%)
- 3位 滋賀県 45人 (10.8%)
- 4位 熊本県 38人 (9.1%)
- 5位 青森県 37人 (8.9%)
- 6位 岩手県 30人 (7.2%)
- 7位 徳島県 24人 (5.8%)
- 8位 宮崎県 23人 (5.5%)
- 9位 大分県 17人 (4.1%)
- 10位 茨城県 17人 (4.1%)

#### 転出超過数内訳

総数



- 1位 東京都 1,086人 (29.4%)
- 2位 神奈川県 623人 (16.9%)
- 3位 埼玉県 507人 (13.7%)
- 4位 愛知県 431人 (11.7%)
- 5位 千葉県 249人 (6.7%)
- 6位 群馬県 117人 (3.2%)
- 7位 京都府 111人 (3%)
- 8位 三重県 105人 (2.8%)
- 9位 石川県 93人 (2.5%)
- 10位 静岡県 61人 (1.7%)

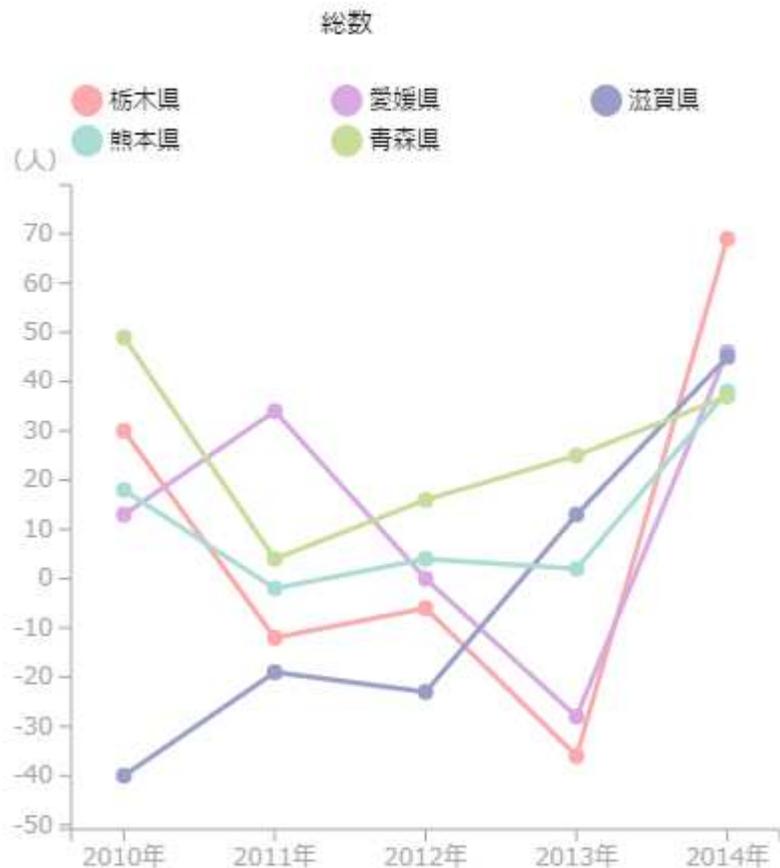
長野県の転入の内訳をみると、新潟県、愛媛県、滋賀県となっている。転出の内訳では、東京都、神奈川県、埼玉県と主に首都圏に転出していることがわかる。

## From-to(定住人口)

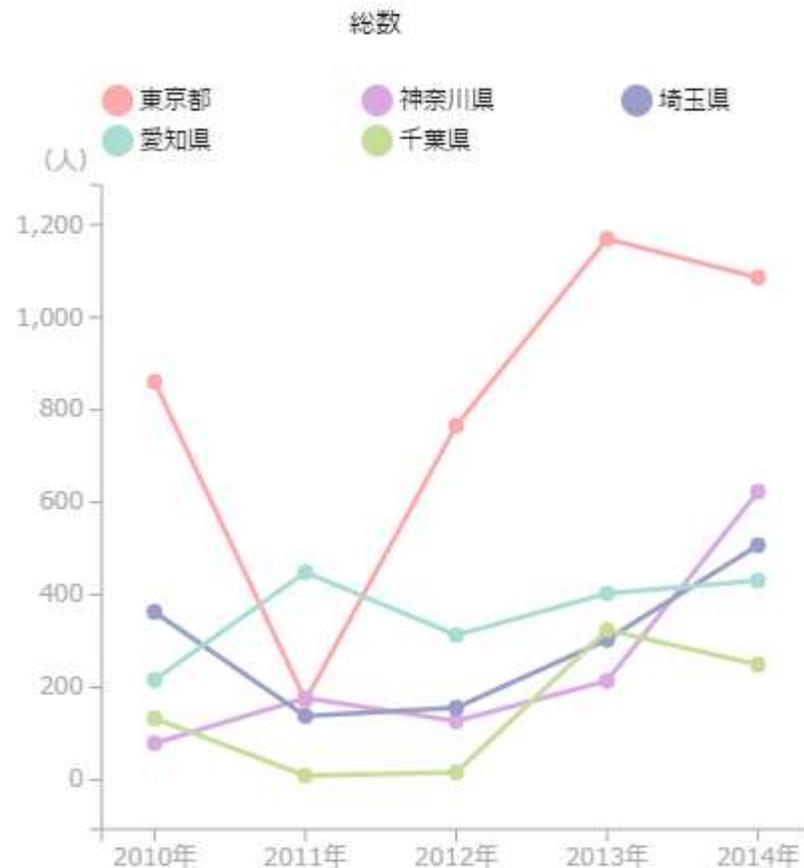
都道府県・市町村単位の転入転出の多い上位5つの都道府県・市町村の推移を2010年から2014年の折れ線グラフで把握することができます。

長野県への転入超過数が多い都道府県は栃木県、愛媛県、滋賀県、熊本県、青森県の順。栃木県と愛媛県は2013年は転出超過だったが、2014年に大きく転入が増えた地域である。一方、長野県からの転出が多くみられるのは東京都、神奈川県、埼玉県、愛知県、千葉県と首都圏が中心であり、東京都への転出超過数は2014年に1,000人超であった。

### 転入超過数上位5地域 2014年



### 転出超過数上位5地域 2014年



【出典】「RESAS人口マップ」-「人口の社会増減」-「From-to分析(定住人口)」/総務省「住民基本台帳人口移動報告」